1962

鏡板誕生秘話

ギリシャの故事に曰く
「過去は私の前にあり
未来は私の後ろにある」

過去は見知っているけれど
未来はまだ見ぬものだから
きっと背後にあるものだろう――と

人間とは
昔から色々と
考えるものらしい

ドタ ドタ ドタ

今日も北海鉄工の
あわただしい一日が始まった

課長!!

えーらい
こっちゃ!!

あ…社長!

なんだね
騒々しい

どない
した

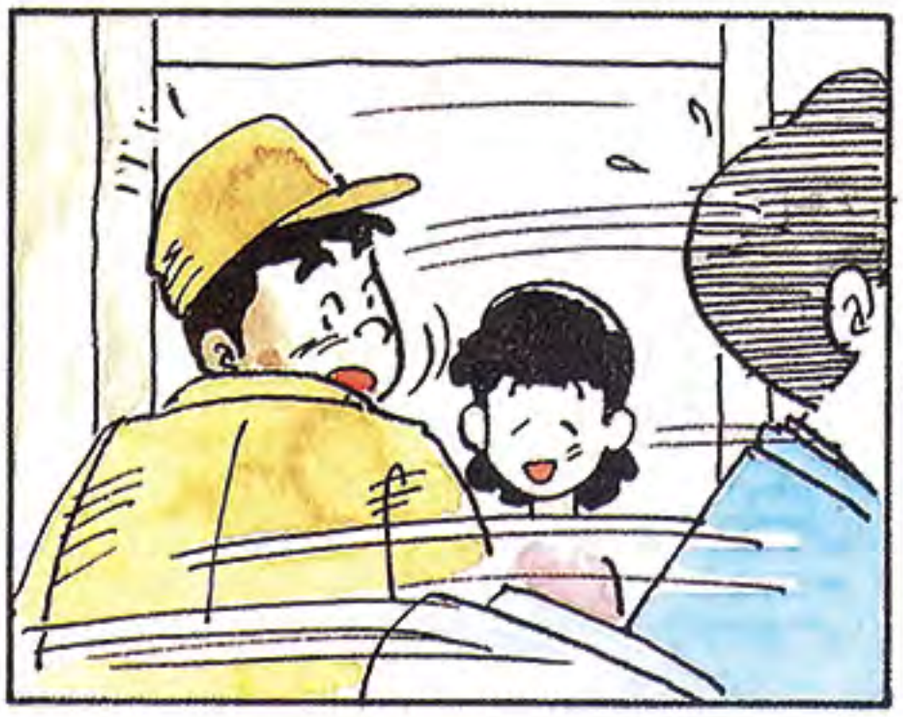
社長

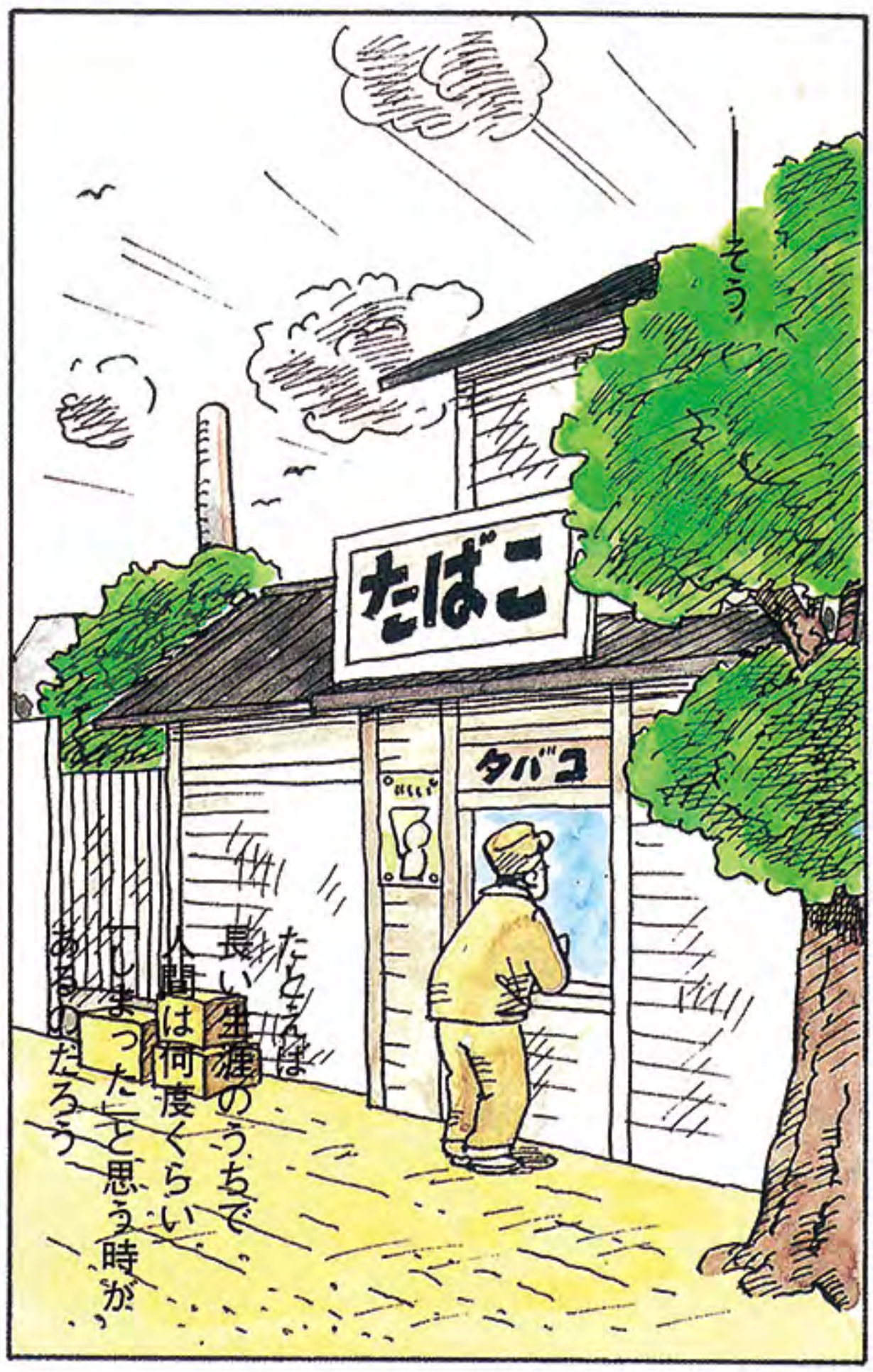
それがその…
ビールタンクの
鏡板の件で…

え…?
しまった!!

当時北海鉄工所は鏡板を外注加工に
依存していた
その品質は劣悪で使えるものが少なかった
そしてまたしてもビールタンクの鏡板が…







あったとしても
あの頃は世界中が
オモチャ箱をひっくり
返したような時代



「もはや戦後ではない」と言われる
までにはまだ
少しかかる時代

なにを
走り回っとるんや

おうおう
またぎょうさん
抱え込んでから

ああ　これ
見取図やねん

見取図う？
…お前
溶接やめて
大工に鞍替え
したんかい

なんでエな
これ
工場やんか

ワシ
工場建てる
ねん

笑うな！
冗談ちゃうデ
（
そやかて
お前…

アンコの
オヤジが
工場やて
カンニン
してくれや

アンコと
ちゃう！
社員や

これからの企業は
事務所くらい
構えんと信用
されんのやど

き

きぎょう

山田…お前
そろそろ
定職につけや

あん？

溶接のウデ
持っとるんやし
ワシのとこに
来たらどや

戦争でみんな
散り散りに
なったけど

お前だけやで
遊んどるんは

お前のウデ
ならワシは
充分…

アホ
ぬかせ

戦争で残った命
なにが悲しゅうて
働かなあかんねん

え？

――確かに
そういう噂は
あったが

バイ
バイ

働きヅメで
遊ぶヒマなんか
全然あらへんって
皆 言うてるデ

お前とこ
いったら
こき使われて

立ち止まる訳には
いかなかった

戦争が我々から
全てを奪ってしまった

家も仲間も
そして職場も消えた
あの時代から抜け出すには
悔いも躊躇も無用だった

戦争によってご破算に
なった人生の
再出発地点は
皆同じだったのだ

うろ
うろ

日本自体
独立してようやく
自力の第一歩を
踏み出そうとしていた

スト決行中

○×電鉄

おぉい！
駅員さん
ちょいとッ

ストだろ
ええ
電車は
動いとらんの
だろ
ええ
でも人が
来るもん
でね

OS造船　東氏
来とる
よ
歩いて
あ
東専務！

しかしまた
なんでストの
日なんぞに
ワシを呼んだ
んだ？
専務に
ウチの工場を
見てもらい
とうて

東専務が
来てくださる
言うたら
ウチの連中が
集まってくれて

ほう
ま
見て下さい
これが我が社の
工場です

ほう
木造り
かね

林溶接
西成区千本通

ワシらはもう
根なし草やない
城が出来たんや
家が出来たんや

為せば
成る!!

皆で頑張れば
何でも出来る!!

おう

ワシら
戦争中からの
付き合いや
もんなァ

昭和27年4月林溶接工業は
工場を新設
林が初めて構えた工場は
西成区千本通にあり
細長くて狭く
道路で仕事をする状況だった

この年の5月
講和が国民の大乱闘を
引き起こす

講和条約の発効による
占領法規の無効――



それに伴う
治安立法の改正により
「破壊活動防止法」が
国会に上程される

これに対し
総評を中心とする労働組合が
強く反対した

「血のメーデー」
日本の独立は
流血で始まった

地を這う虫のように
社会の波の底で
蠢きながら
今日生きのびる事に
のみ追いたてられる

人口の半分が
そうだった
から

何ものにも
ゆるがぬ
根が欲しかった

大地に食らいつく太い根が――――

昭和30年
林溶接工業所は
法人に改組

株式会社 北海鉄工所
西成区津守西

株式会社
北海鉄工所の誕生
となる――

その頃千葉で……
K製鉄所に
前向きな社長がいた……

千葉に
製鉄所を作り
たいんやッ!!

しかしねェ
社長

しかしや
カカシで
鉄が買える、ン
ですかいな

金はどうする
この不景気だ

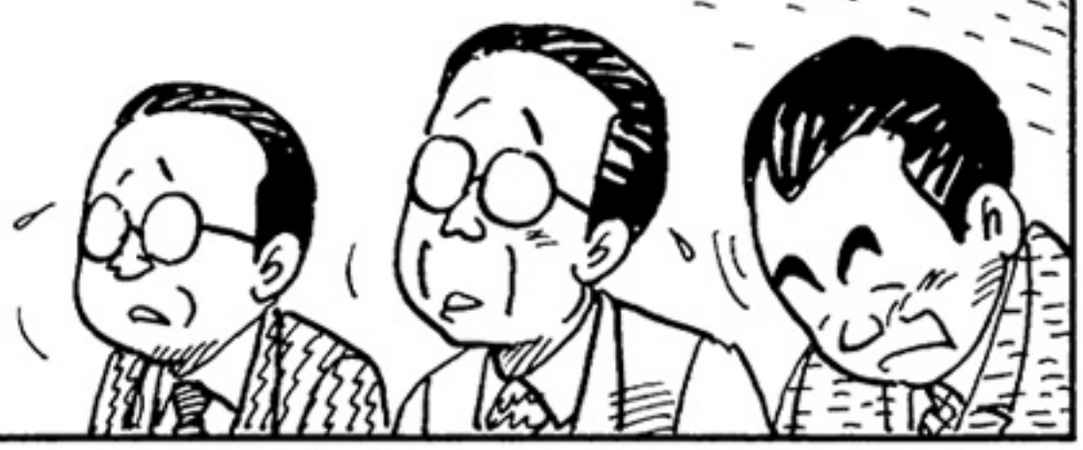
日本には
金がない

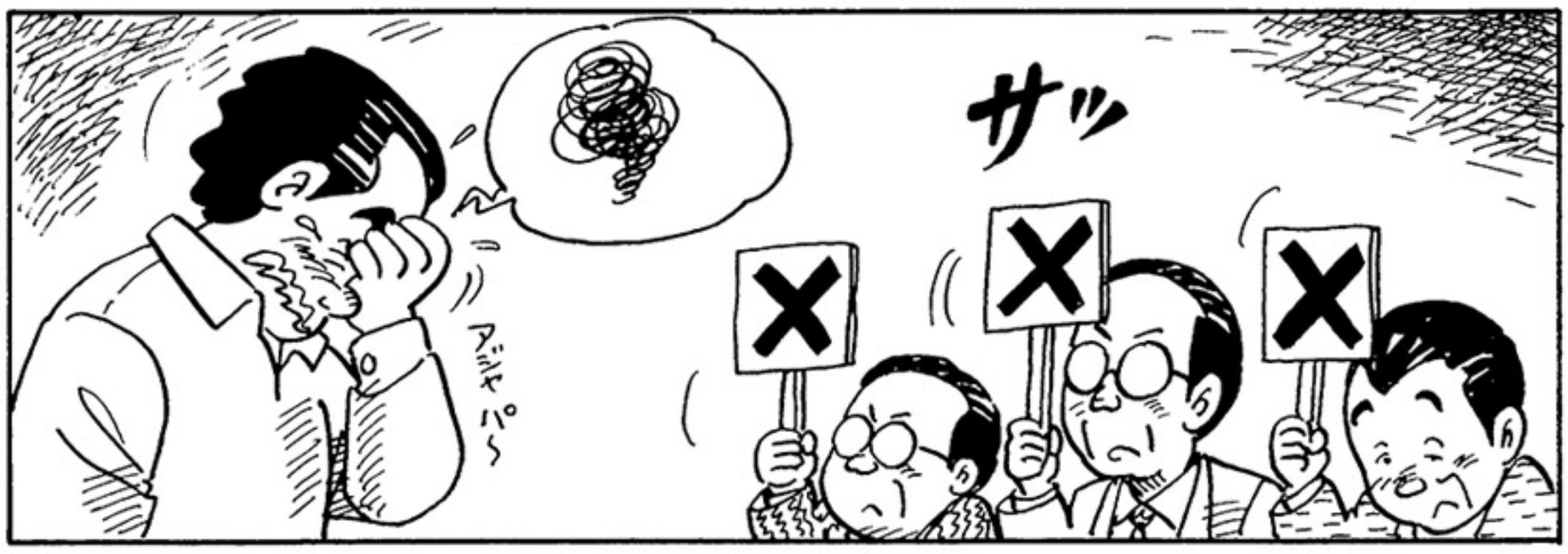
金のないのは
分かってま
そやけどワシは
インゴットの供給を
ウチに対して制限する
Y鉄の
ヤリ口が気に入らん
そんな根性に
負けるウチでは
ないでっしゃろ

売ってくれんのなら
その鉄　ウチで
作ったろや
ないですか

ウチの底力
ここで
見せいで
いつ見せますねん







サッ



ドカ
ドカ

くそォッ!!
金やろ
金作ったら
文句ないんやろ
作ったる
わいッ!!



――という訳で

IMFに
金借りに
行こう…。

昭和32年の
鍋底不景気の年から
昭和34年にかけ
二度の工場拡張があった

安保だ何だと
世間は騒々しかったが
北海は順調に
成長していった

だが
会社が大きくなるにつれ
少しずつどこか
きしみ始めていたのかも
知れない

株式会社北海鉄

昭和32年に
労働組合が
結成され
北海鉄工所も
ご他聞にもれず
のちには
ストライキの
洗礼をあびる
ことになった

昭和34年
労組は年末一時金に関し
無期限スト を決行


みんな
仲間だった
皆で
走っていると
思っていた
「我々」でなく
「労使」
初めての体験だった

ハッ

課長!!
え〜らい
こっちゃ!!

ビール
に使
使う鏡板

遅れに遅れて
やっと一部届いたと
思うたら不良で
ほとんど使いモンに
ならしまへんわ

この分やと
残りも同じやろう
納期がないっ
ちゅうのに

80枚もの鏡板
一体どないせいっ
ちゅいますねん

しまった!!

こんなモン
使えないよ
全部手直しや!!

ええかッ!
ヤードに置ける
所に全部
並べるんじゃ!!

…ま
毎度の
事やけど

胴体がなんぼ
早う出来ても
鏡板の手直しに
時間をとら
れてパァですわ

そら営業や管理は
精一杯やってはるん
でっしゃろけど

私ら現場のモンが
なんぼ工程を守ろう
と思うても
外注鏡板がこれでは…

ビール製造株式会社

納期が定まらなくて働きがいのない仕事を強いている

人に対しても己れに対しても

この頭をいくら下げたところで鏡板業界の技術が向上する訳ではない

ドカ

ドカ

あっ

社長

ばん

……

社長室

当時、タンクメーカーは
鏡板を全て外注に
依存していた

要はどれ位
納期の余裕を
見ておくか…
ですワ

私らかて
鏡板業界の
限界は知っとり
ますワ

そやから手直しの
分も少しは工程に
含みます

けど私らもなんぼ
掛かるか、損か
わかりませんから

手直しの金と時間で
工場価格が
はね上がりますやろ

いつも
赤字ですわ

結果的にね

おかしい
どこか間違って
いる……

山田

毎度毎度
タンクを
作って損を
するとは
どういう事だ

たまげたで
なァ

俺はまた
タコヤキ屋
でも始めたン
かと思うた

しかしまァ
お前らしゅう
ないなァ

え？

いつも元気な
林が
なんで鏡板に
限っては
弱気に
なるねん

……

鏡板における不安定さは
今に始まった事ではない

当時　外注鏡板の
納期遅れは当たり前
コスト高に粗悪品が
多いのも常識の
部類に属していた

ついに自社で鏡板を作る決心をした林は
俄然それを実行に移しはじめた

ああすまん
会長を

もしもし
忙しい所を
すまんが

製造の
石川君を

村上君
設計の
森君を
呼んで
来て
くれるか

鏡板は
うちで作って
一切を自社製品
に切り替える！

コト


ウチで
…作るんですか
鏡板を？


そうだ 作って 売るんや
いろいろと検討したが品質の良い鏡板は
外注にたよるのは不可能という状況だ

けど
どやって
作るんや!?

ガヤ

お前
作り方
知ってるか？

ガヤ

知り
まへん

経験
ないし

ガヤ

設備も
ない

ガヤ

第一に
資金は!?

エッ

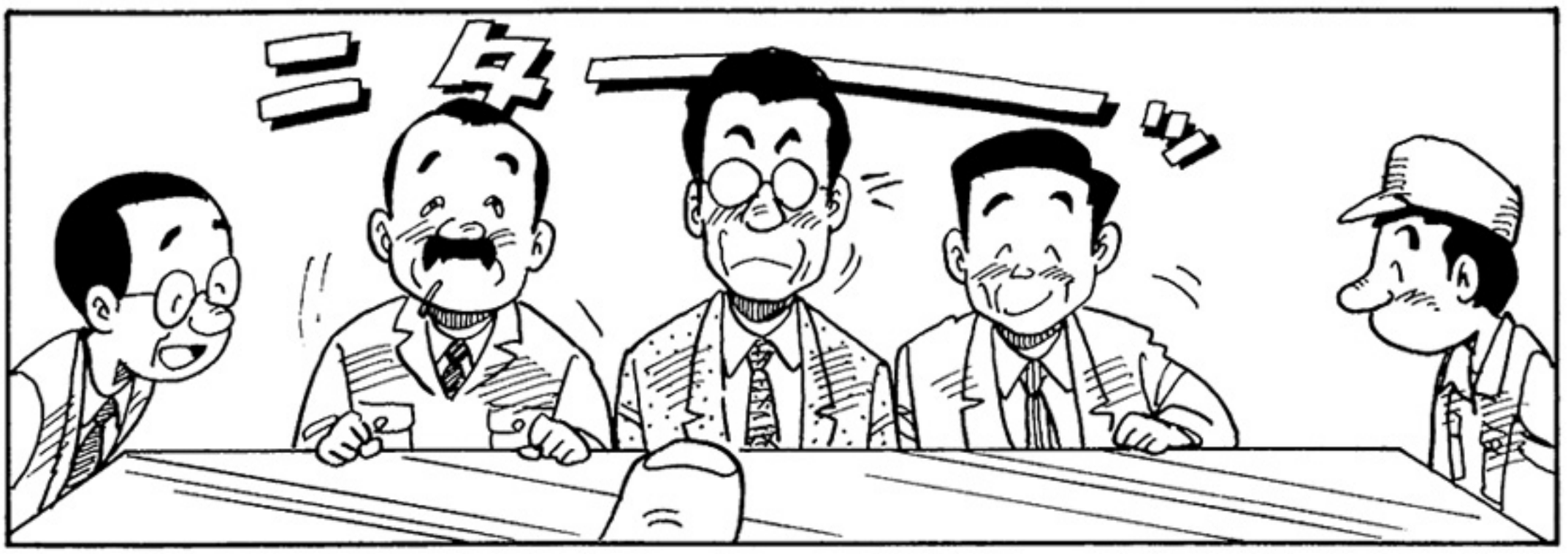
それを
これから
みんなで知恵を
出しあって
考えるんだ

たしかに
我々には
設備も
資金も

経験も
なんにもない
まったくの
ゼロの状態だ

だけど幸いにも
どこにも
負けない物が
一つある

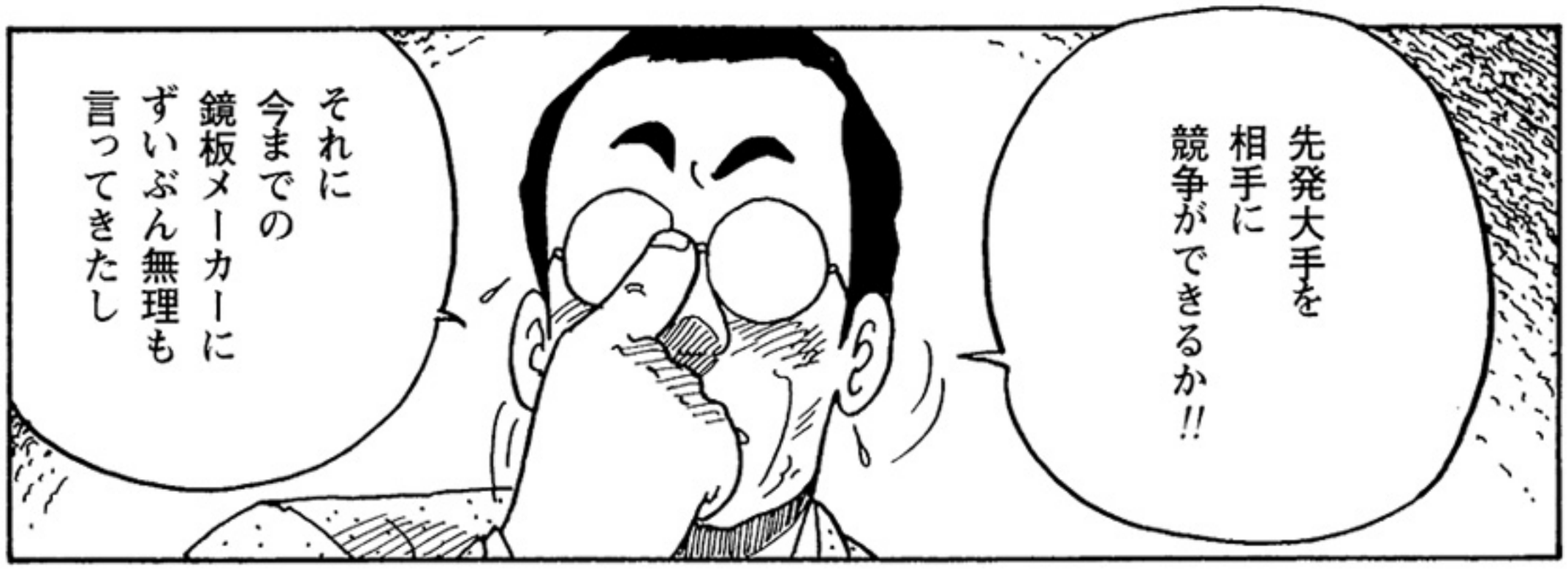
それは
君達
……
優秀な
人財だ


ニヤ
ッ


鏡板を
作れるように
なったとしても


私は
反対です
金もない
設備もない
何とか
なったとしても


知名度も
ない弱小の
北海が


先発大手を
相手に
競争ができるか!!
それに
今までの
鏡板メーカーに
ずいぶん無理も
言ってきたし

ウ～ン
それも
そうや
けどな

それじゃ
君達は

北海は今の
ままでいいと
言うのかね！

タンクの
良し悪しは
鏡板の
出来しだいで
決まるんだ

今のままでは
相手まかせの
仕事だ

利益も品質も
度外視した
奉仕だけに
終っていいのか

アッ
イヤ
それは

散々不良品で
苦しめられて

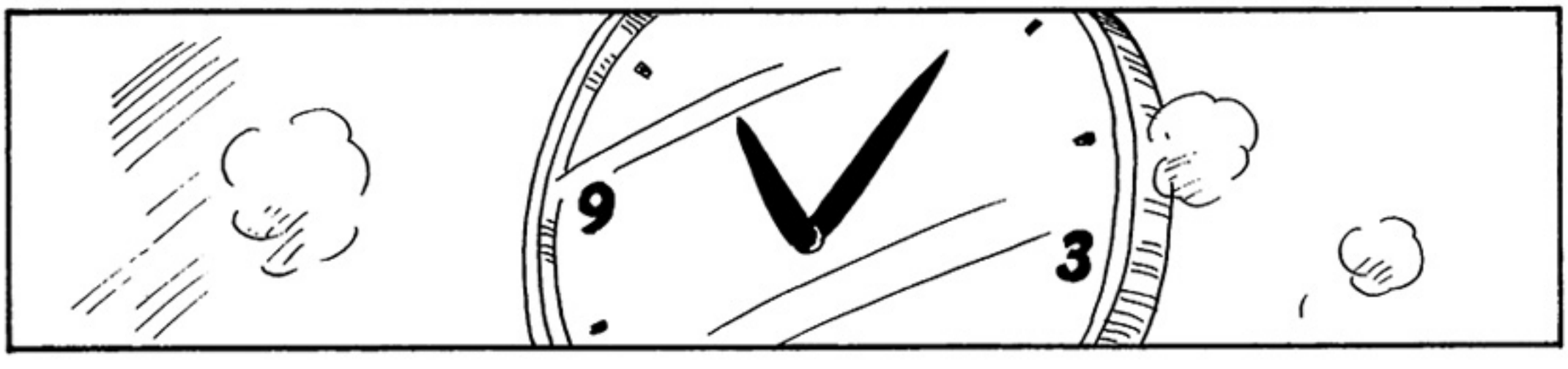
鏡板業界の
限界を
知っている

お客様に
喜ばれる
製品を作るには
どうすれば
いいのか？

社員が幸せに
暮らせるには！

少しでも
利益を上げる
にはどう
するか！

自分達で
やるしかない
他をあてにせず
鏡板は自らの
手で作ろう



それで！
社長はどの
ような
お考え
ですか？

あのビールタンクの
一件いらい
いろいろ考えた結果

自社で作るなら
他にはマネの
できない設備と
技術にしたい

従来通りの
熱間フランジング
マシンでは
だめだ

出来上がりは
周知の通りお粗末な
物ばかりだ

私は冷間工法を
採用する

レイ
カン

霊感!!

冷間や

なぜか？
それは冷間で
プレスすれば

それだけ
作業工程が減り
生産性が
あがり
安くて早く
お客様に
製品を
お届けするんや

やれば
できる
……

……

それと
もう一つ

今までは
注文により
一品生産
だったが

これからは
標準化する
一定の
規格のもとに
いろいろなサイズや
板厚別・鋼種別の物を

大量に在庫して
置けば、いつでも
お客様に供給
することが
出来る

社長室

夢みたいな
話やな

私の考えは
以上だ
まだマル秘だが
社員にも
私の気持を
伝えてほしい
後はみんなで
検討してくれ

けど
無茶苦茶
でっせ…

なにを
考えとんや
やろ!!

不可能や

充分検討
したんかいな
そんなこと
出来るん
かいな

そうやろか!
社長の言う
のも一理
あるし

社長室

社員を
説得する
のは大変
やで

ワッチャー
ボロクソヤ

ガクッ

優秀な
人財達よ
頼りにして
まっせ

今日も社員が出来上がった
鏡板を引き取りに行った

鏡板が出来たそうで
もらいに来ました

そこにあるから
持って行って
んか

納期は遅れるし
寸法も
やっぱり
ちごうとる
しゃーないな

また
手直し
や…

ぼーっと
見とらんと
積んでくれたら
ええのに…

北海鉄工所

北海さん
こんどから
もっと大勢で
おいで

チェッ

まるで
反対やな

うちは
客やで…

北海鉄工所

もう鏡板を
引き取るのは
イヤヤ……

ほんまに
えらい
鏡板屋や

ウチの鏡板が
気に入らん
のやったら
ヨソで買うたら

エッ

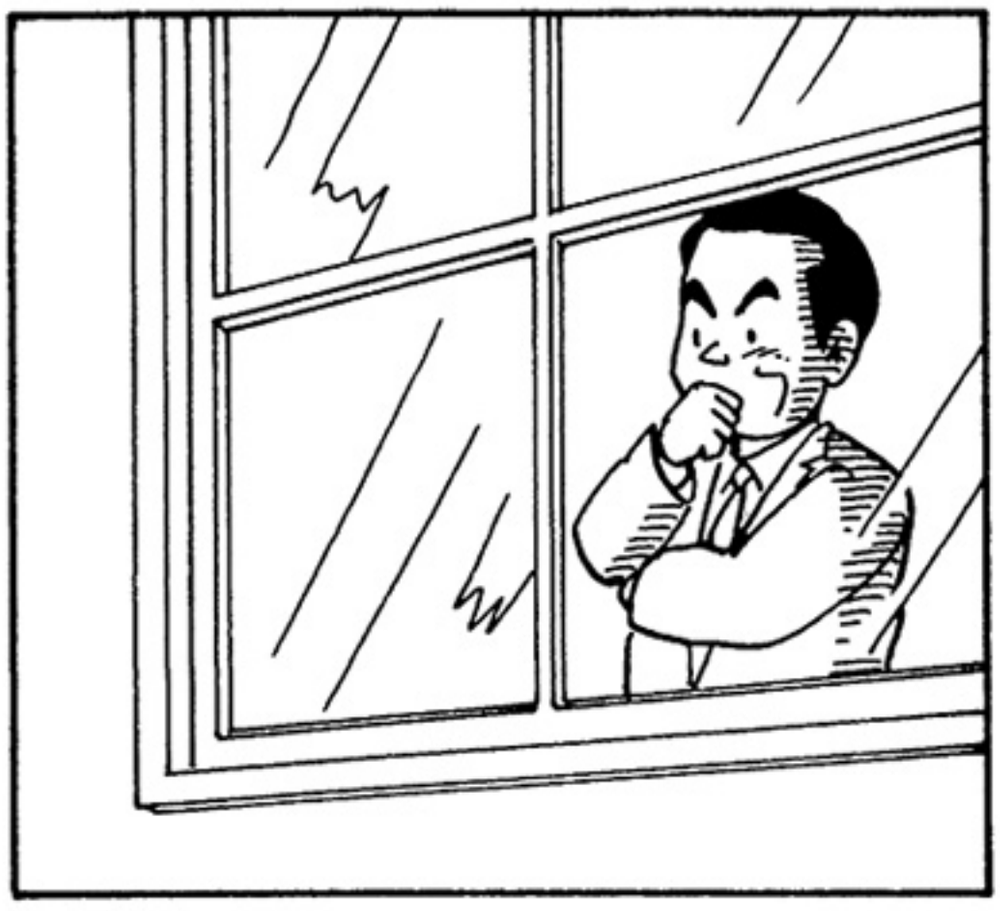
クソーッ

バタン

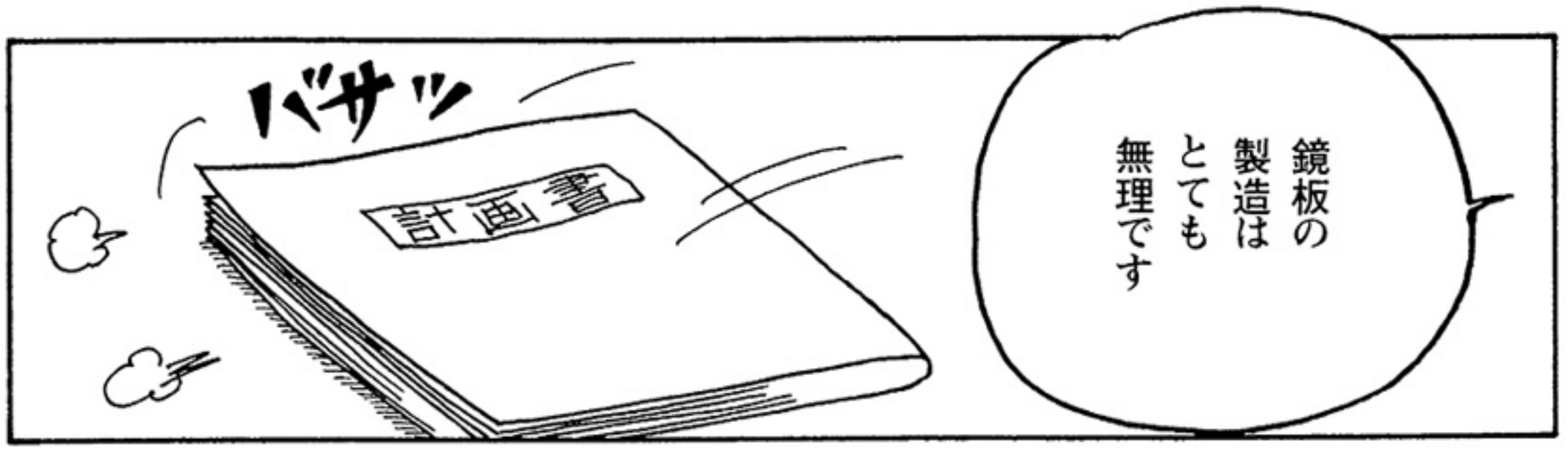
腹たつ—
人の足元みや
がって……
くやしーな

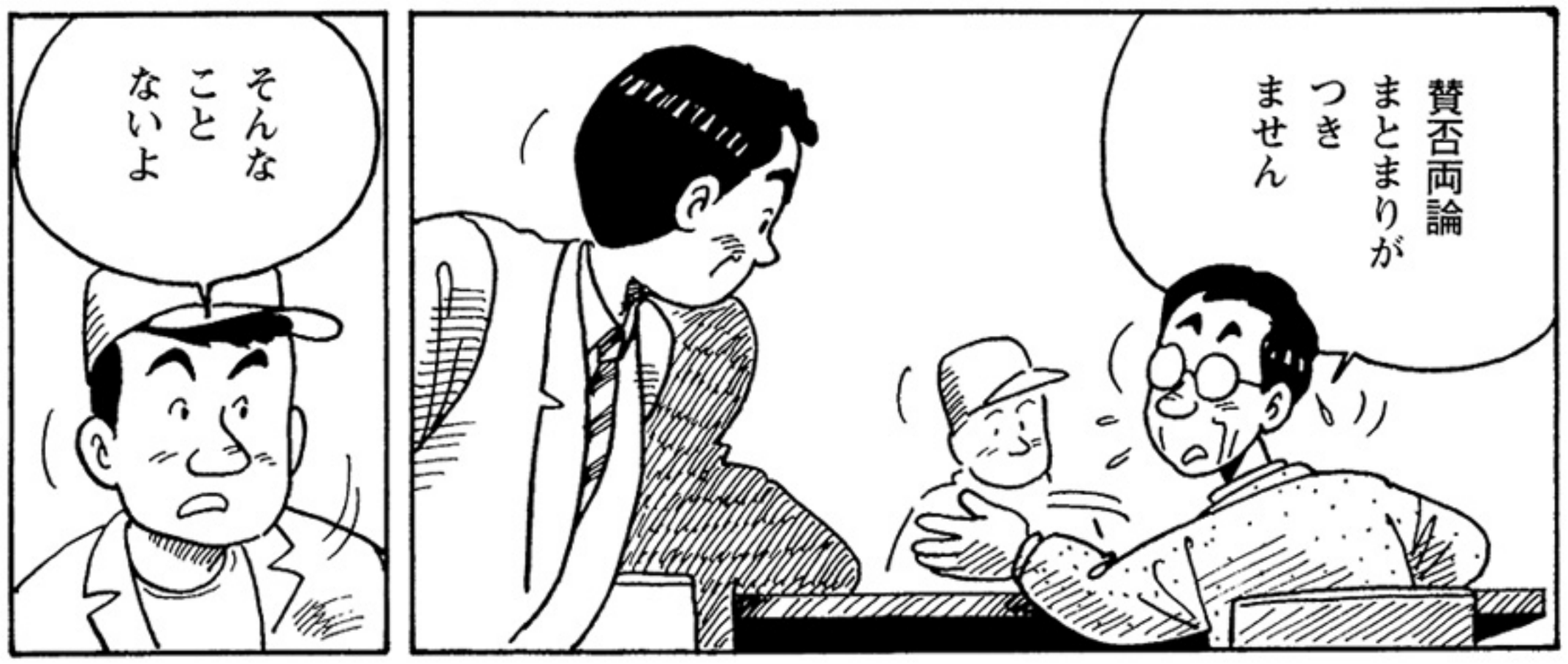
ブオー

そのころ









バタン

キキッ

ブオーン

やる気のある社員は
幾らでもいます

君は会社を
潰しても
いいのか
この計画がどんなに
大変なものか
理解していない

社長
やりましょう

お前
アホか
なんちゅう
ことを…

アホ
とは
なんじゃい

社員や家族を
路頭に迷わし
てもいいのか

なにいッ

ハークション

ピタッ

シュン

ドタドタ

社長～ッ

アッ

すまんすまん
どうぞ
続けて

アホ
クサッ！

ドガッ

ドガッ

ありましたで
大型のプレス機
が…

資金はない
プレス機の
中古品を社員が
手分けして
探した

どこに

アアッ
……

戦時中に
作ったという
大型プレスです
戦後はまだ一度も
使わずに放置
されているんです

K製鉄の
葺合工場に
プレスが
あります

一部改造
すれば
……
使えます

落札してきました

ラッキーだ…

なんぼで落札したんや!?

ヒェ〜ッ

3億円!

やっと見つけたプレスはスクラップ並みの安いものであったが当時の北海にとっては高価な買いものだった

お前達はよってたかって会社を潰す気か…

早速
見に
行こう

ブオーーン

けど社長
自力で
賄える
ような

代物と
ちがいまっせ

資料

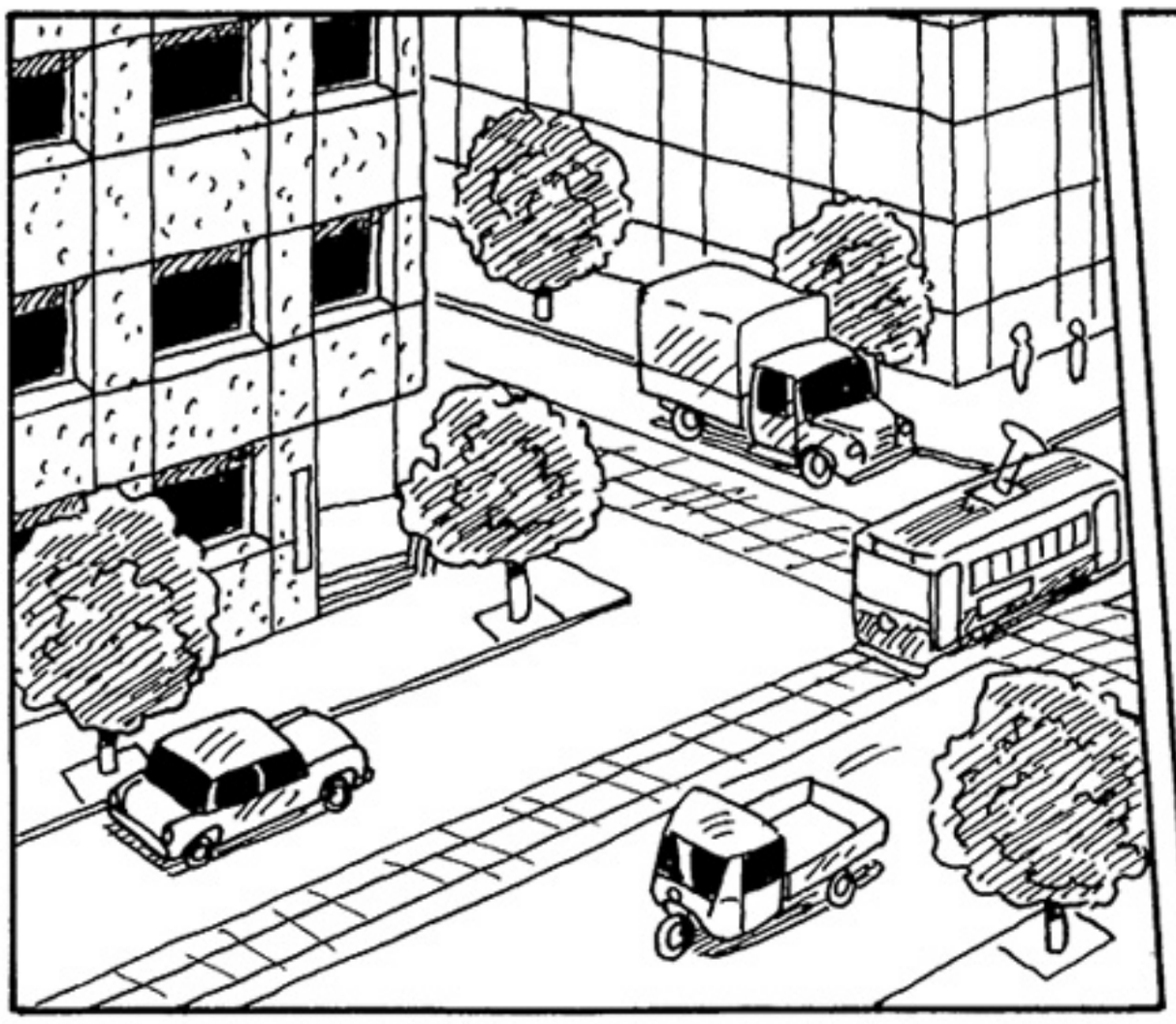
まあ、そんなに
心配するな
なせば成る

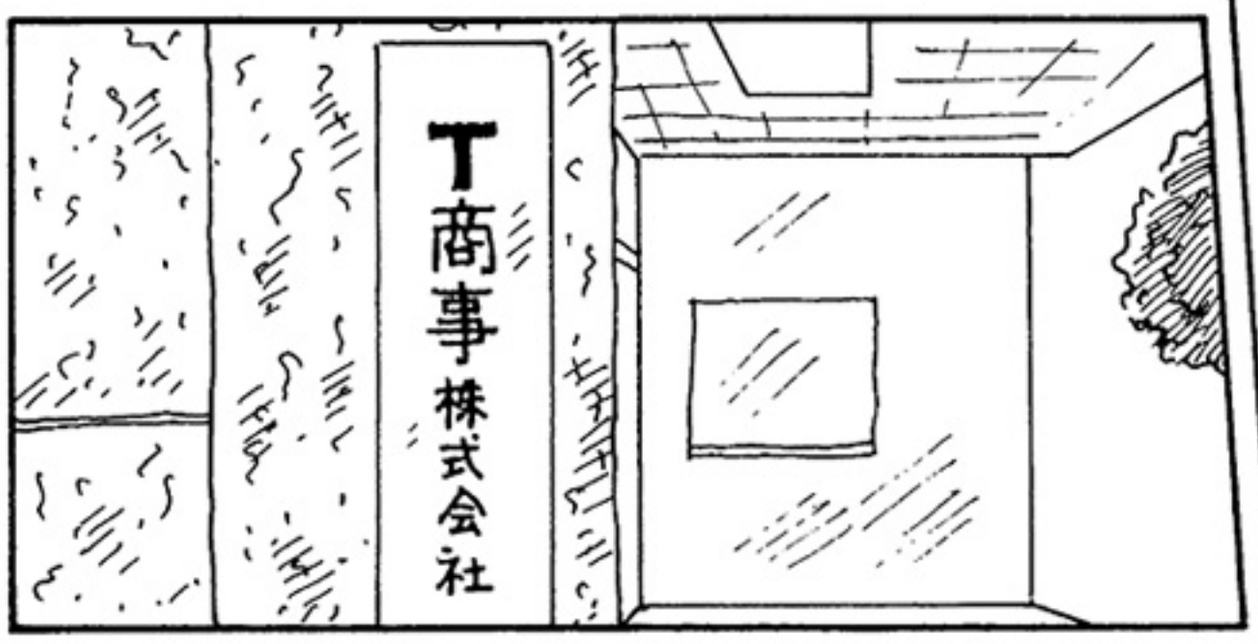
俺の心は
変わらない

このプレス
買いまっさ

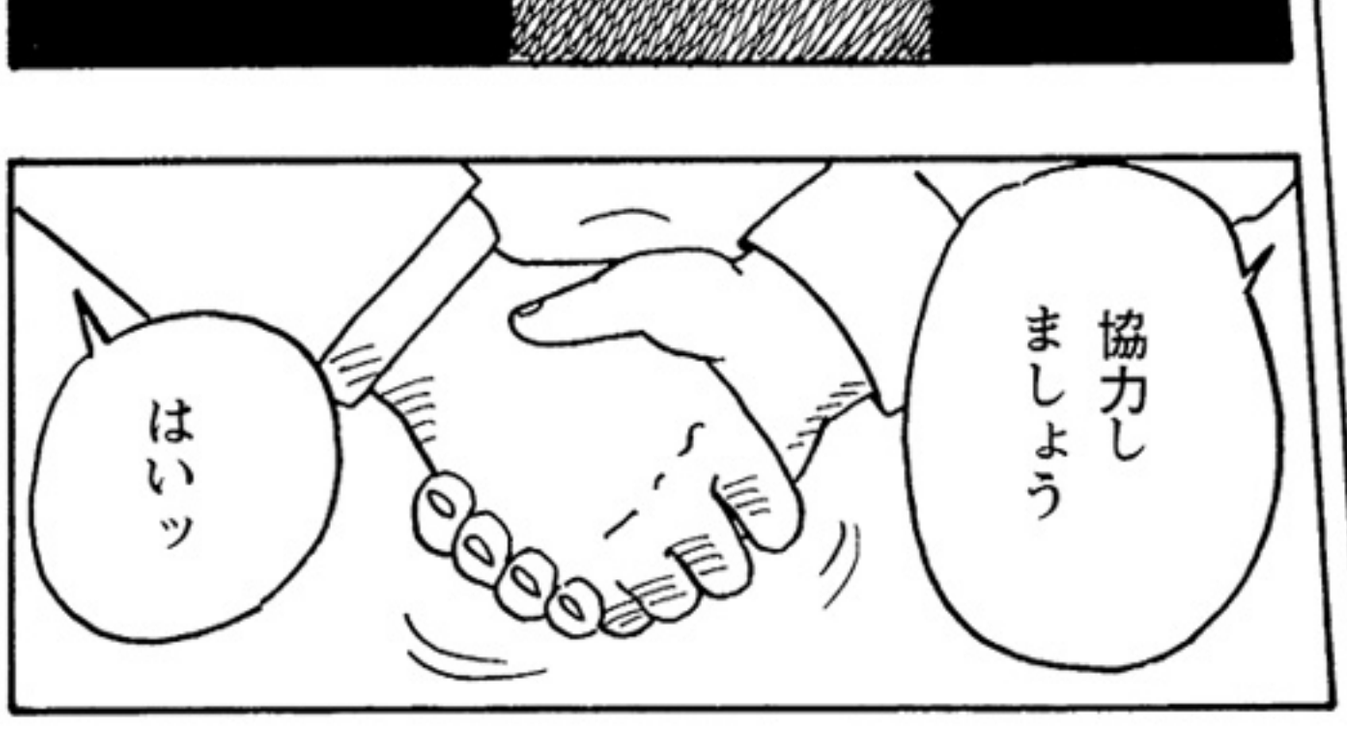
K製鉄 葺合工場

おおきに
まだ使えまっせ




T商事株式会社


大変な
企画だが


協力し
ましょう
はいッ


社長
金は
これから
借金
するんや
これから
ブオー

ブォー

次は
銀行

タンタン

そして

OS造船(株)

ほんまかいな
大丈夫でっか
北海さん

おおッ

数力月後…

ありがとう
ございます

これ
なんでっか？

解体船の
シャフトや

プレス機の
支柱に
使うんや

ヘエ

他にも
いっぱい
苦心してる
所がある
んや

サラで作ったら
高いからな
よせ集めや

ウィーン

鏡板を作る
のも大変
プレス作る
のも大変や

ウィーン

だんだんと
現実の
もんに
なってきよ
ったな

毎度～っ
北海さん今日は
久しぶりに
納品に来ましたで

株式会社 北海鉄工所

なんや知らん
間にえらい
デッカイ工場を
建てたなァ

デッカイ
機械が
入ったんや

えッ
どんな

6千トンの
プレス
やで…

ほんま
か!!


べらべら
しゃべるな
アタッ
オイッ
ちょっと
見せてえな
……
あかん、あかん
鏡板屋に
見せられる
かいナ
ちょっとだけ
な…、な…
勝手に
見たら

ウオッ
6千トン
プレス機や

6000t

なでかい
な～ッ

鏡板

鏡板

おいッ
えらい
こっちゃ

なんやて
北海が
鏡板を
作る!!

ゲワーン

バチバチ

六千トンの
プレス機でか
ハッハハハハ
笑わしよんな

オイッ
ええかげんな
こと言うな
冷間で
鏡板が出来る
はずがない

そんなん
不可能じゃ

北海に
なにが
出来るんじゃ

わしらでも
マトモな物が
できへんのに
アアッ…

夢でも
見たんと
ちゃうか!?

アッ
タタ…

ギュ～ッ

なッ山田
どう思う

ヒ～ッ
やっぱり
夢と
ちゃうで

ギュ～ッ

アタッ
ホンマヤ

北海が
……

もう少しで

完成だな

別のスタッフでは
製品の標準化、規格化の
ために調査を行った

これは後に
日本工業規格
（ＪＩＳＢ８２４７）
の母体と
なった

絞り加工の実験研究や
安全性のテストなどが
繰り返し行なわれていた

500

来年の
見本市には
製品を出せ
そうですね

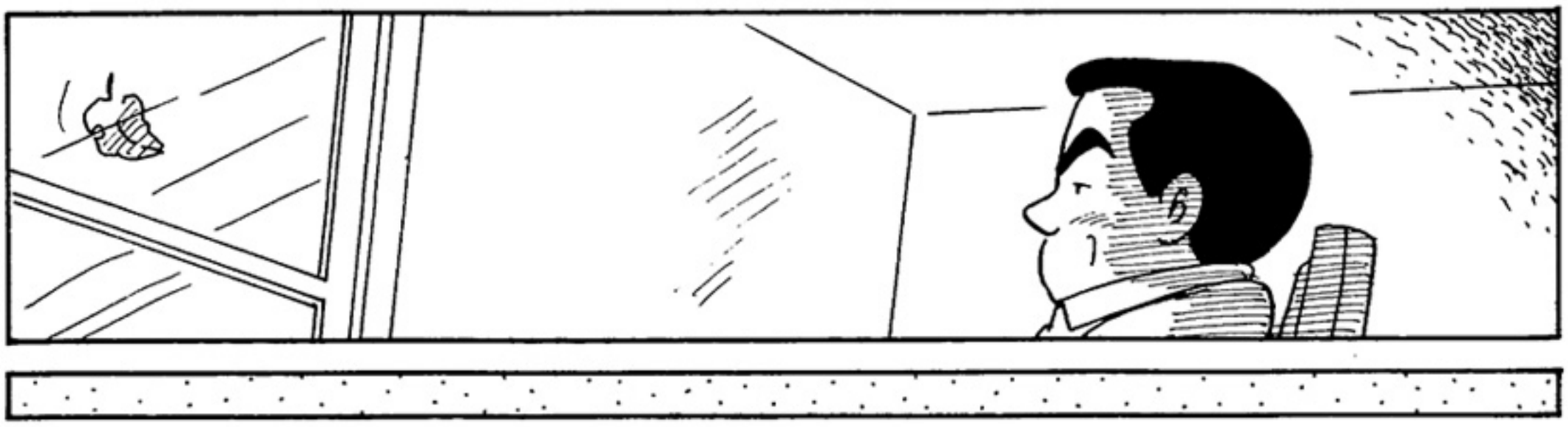
やり
まっせ～

昭和36年
年末一時金について
労組と折り合わず
約1カ月に及ぶ
長期ストライキが
決行された

スト決行中

西ス

。。。




1月にストライキも解除され
プレス機の試運転が開始
された…
どう
なって
るんだ
プレス機は完成したが
また一つ問題がおきた
あかんで
これは
これで
ほんまに
できるん
かいな

おかしいな

計算通り
なんですけどね

仕方がない…

なんや
これが
北海の
鏡板かいな

たいしたことないがな

もう一度
始めから
チェックだ

ソロリ

ソロリ

おでん

酒


な～ッ
ワシの言っ
た通りやろ
北海
なんか
北海
恐るるに
たらずや
今度の
見本市では
笑い者に
したろかい
はっはは…
けんどな
お前ら
ウムッ
ナンヤ
北海を
なめたら
あかんで

何とか
しないと
折角作っ
ても

使える
製品は
ほんの
2、3割
ですよ

原因は
一体なんだと
思う!?

考えられる
事は全て
試しましたが
……
残るのは
材料です

もっと
良い
材料が
あれば

材料が
悪いのです

鏡板用の
材料が必要
なんです

そうか
材料か

冷間プレス
には
クロスロール
し、なおかつ
不純物の
少ない
鏡板対策材
が必要
だった

K製鉄の社長さんです

よろしく

林です

なるほど

北海さんの問題点は
よ～く
理解できますよ

私も鉄では
苦労を
しましたからね

ポン

K製鉄

北海さんの
言う通りの
物を作って
ください

……

よしっ

とうとう
要望通りの
ものが
出来ました
よ

カチッ

できた!!

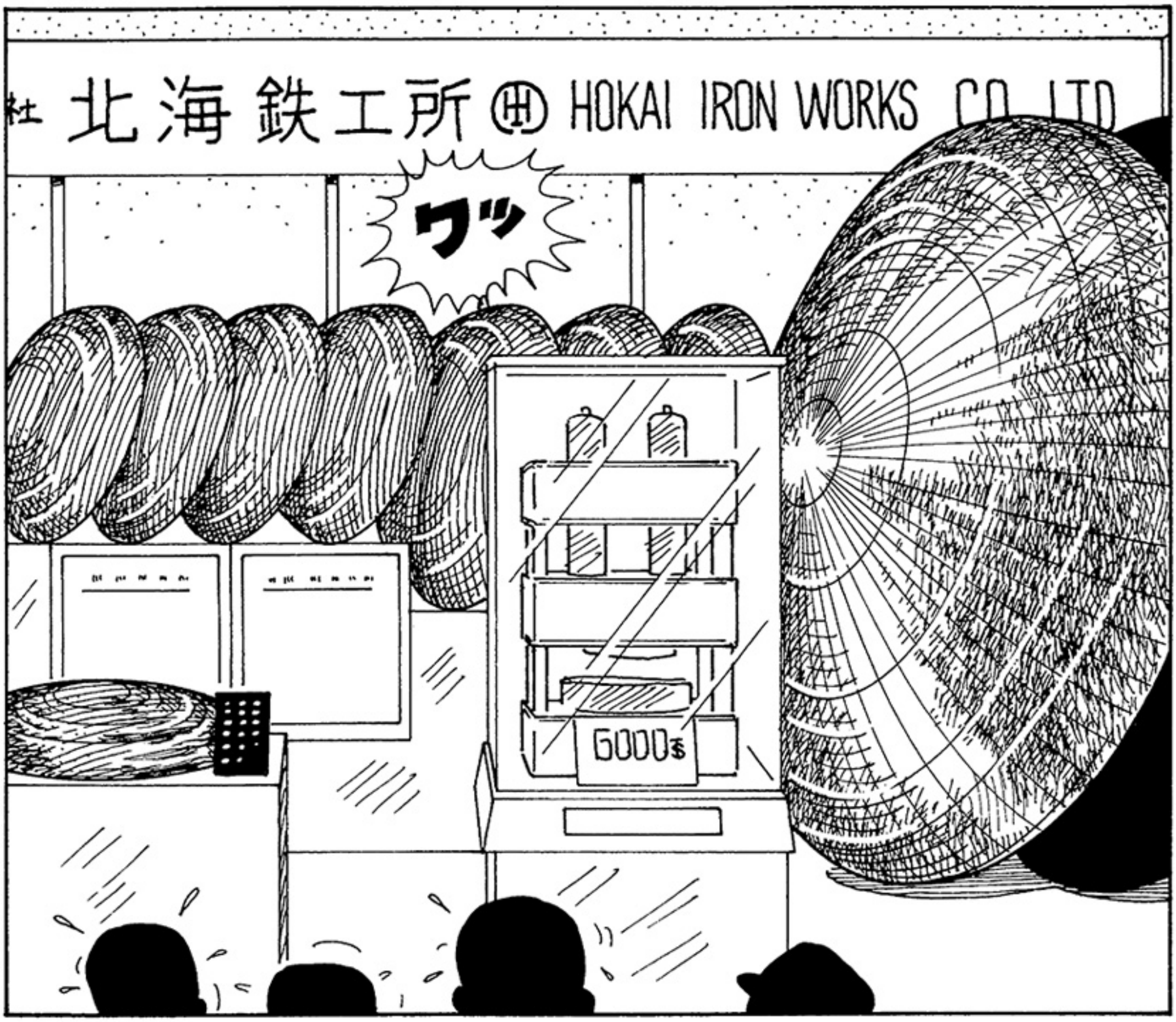
ポン　ポン

第5回 大阪国際見本市

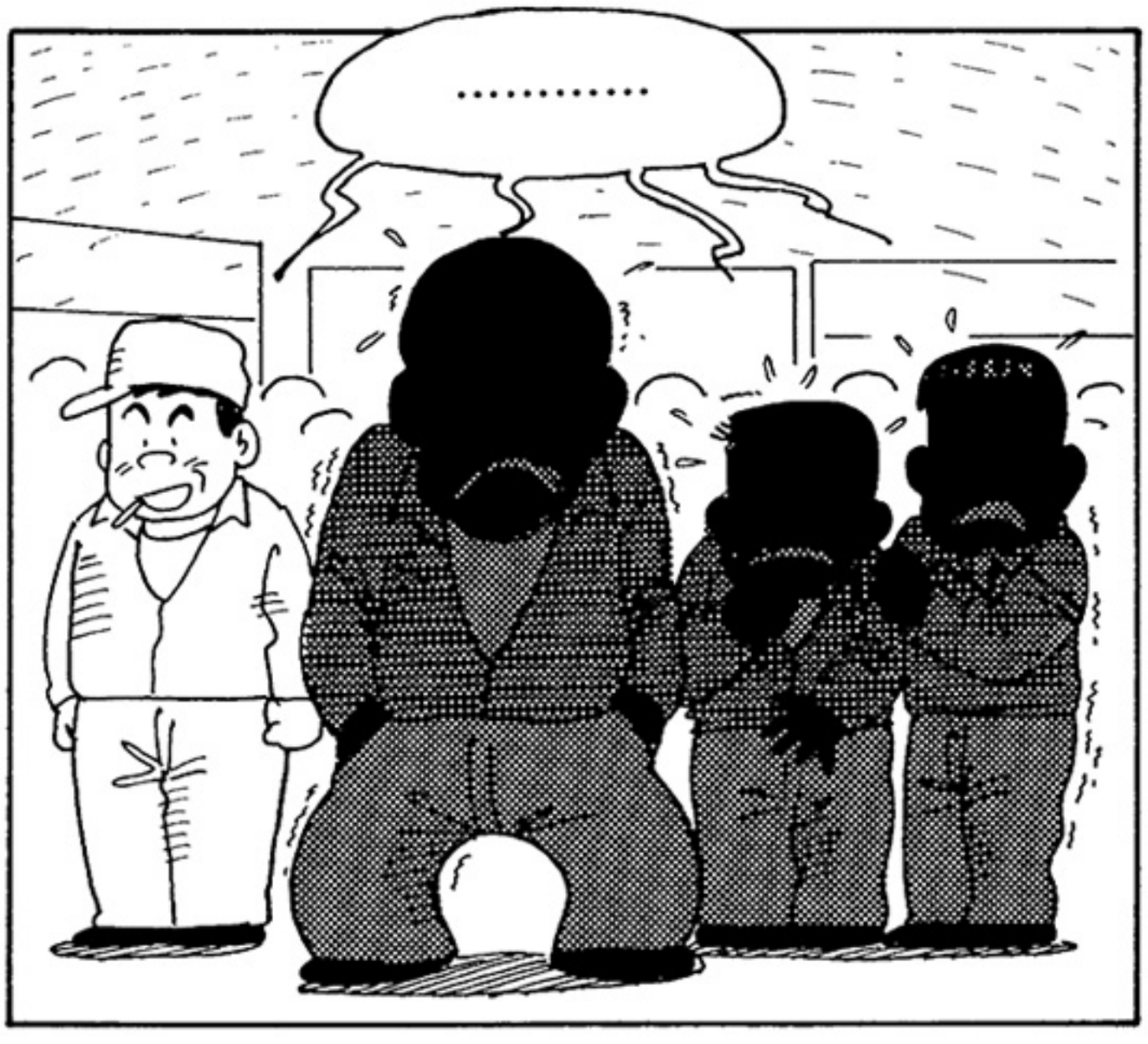
北海が恥をかくのを見とどけたろかい

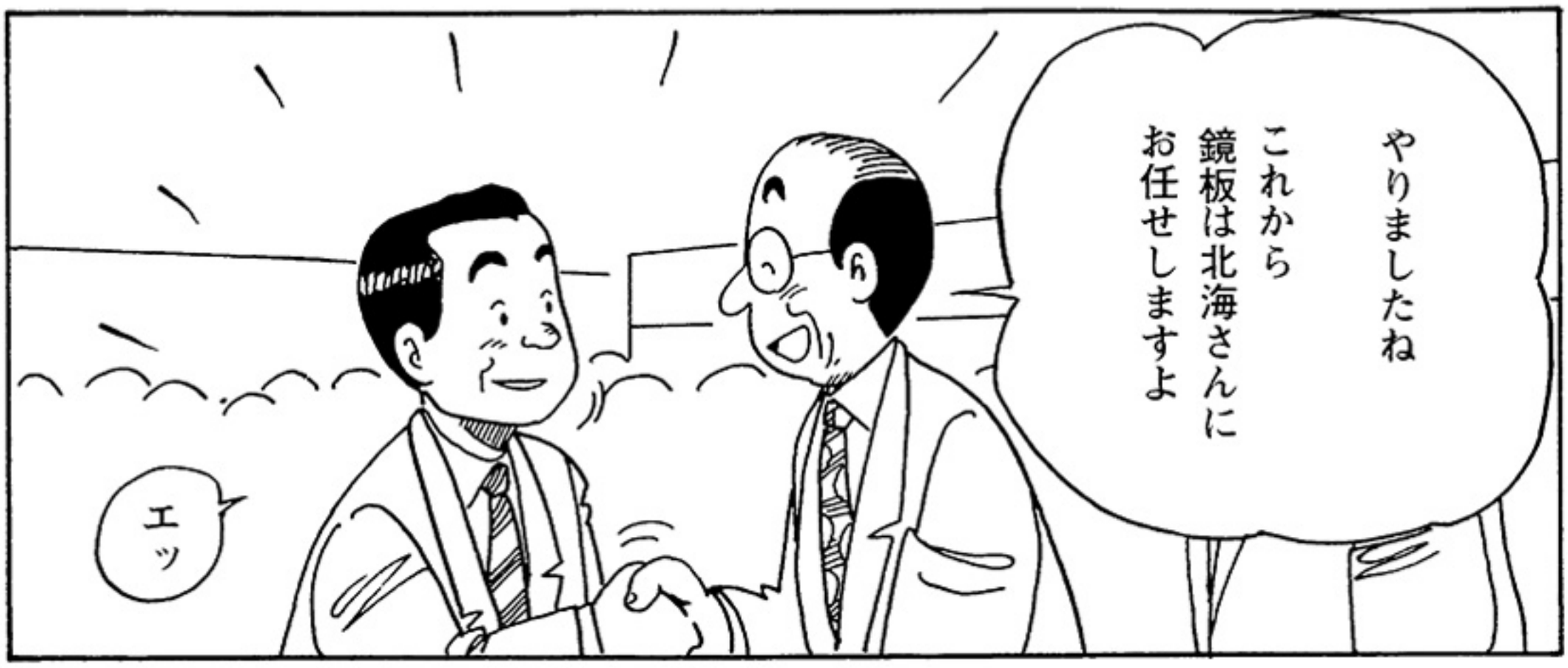
たのしみやの～ッ

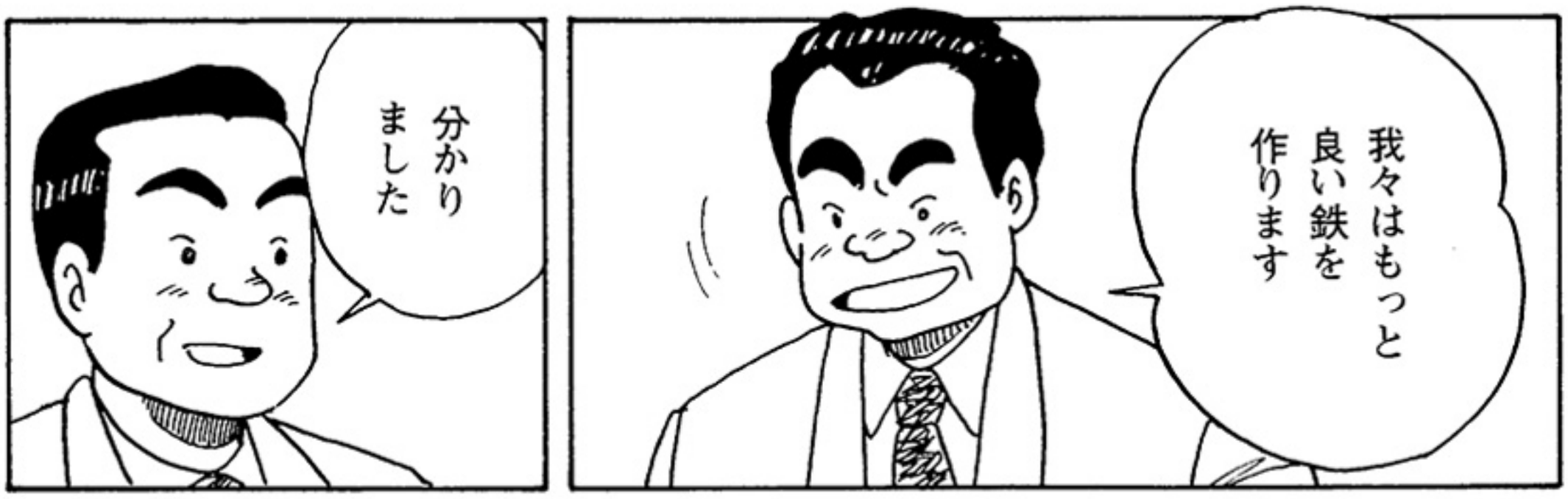
ザワ　ザワ


㈱北海鉄工所 HOKAI IRON WORKS CO LTD
ワッ
6000$


見事だ


……


やりましたね
これから
鏡板は北海さんに
お任せしますよ
エッ


我々はもっと
良い鉄を
作ります
分かり
ました


HOKAI IRON WORKS CO., LTD.

開幕後、期せずして
北海の鏡板は関係者
注目の的となった
しかし、本格的に
売れ始めるまでには
大手客先の理解が得られず
同業者の悪宣伝もあって
時間がかかった
軌道に乗ったのは
JIS制定の成った
後の話である

輸出第1号が海を渡る
ことになり
これを機に本格的に
海外進出を企図
された

海外の情勢を子細に
視察し、その結果
東南アジアの市場は
まだ将来にまつべき
ものが多く
直ちに当社の鏡板
市場となり得る
ものではない

これからは
欧米先進国に販路
開拓の方向を
求める
ことが得策として
考えられた

昭和41年
アメリカの
ユニオン・タンク・カー社
から発注された鏡板の
プレス現場に立ち合う
ための首脳陣がそろって
当社に訪れた

副社長
マッキーバー

OH!!
NO!!
信じら
れない
よ!!

シカゴでは
写真や資料で
一応くわしく
説明を受け
て……

製造担当
ボリカー

内心はまだ
研究段階
と思って
いたんだが

副社長
ソンバーグー

我々の
注文した
119インチの鏡板
が……

まのあたりで
冷間加工
されるのを
見てると

真実で
あったことを知り
本当に驚嘆し
ているよ

実に
すばらしい
優秀性は
よ～く
わかりま
したので

さっそくにも
技術も含めた
設備購入の
話し合いを
すすめましょう

同社はさらに
帰国後も
イリノイ工科大学などに
従来の熱間加工の
鏡板と北海の
冷間によるものを
持ちこみ

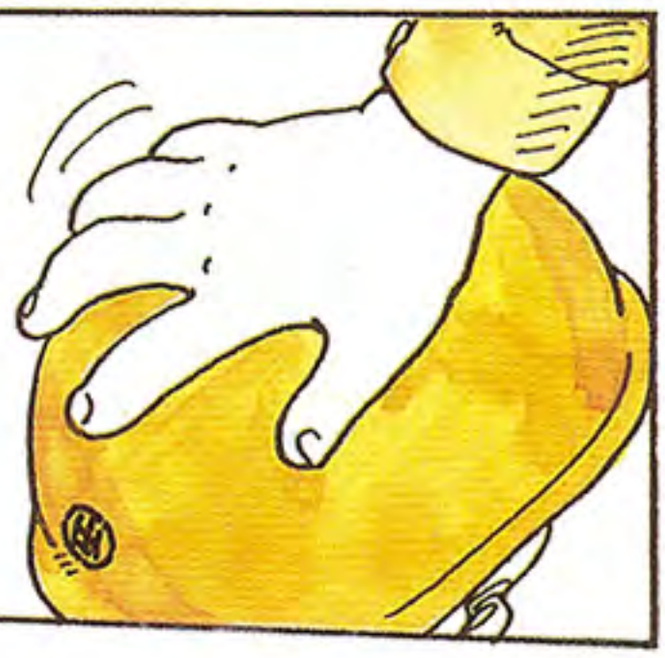
両者の品質を
比較調査するよう
依頼し、そこでも
北海製品の
優秀性を確認
したのであった

昭和41年10月
記念すべき
七千トンプレスの
設備購入ならびに
それに伴う
技術指導の
契約書が、
同社、S商事、
当社の三者間で
調印されたのである

7000t

人をどこまで
理解し得るかは
誰にとっても
疑問である

林社長に
してもそう
だった
自分をどの
くらいの人が
理解して
くれているか
自分は
どれだけの
人を理解
しているか





既にこれだけ成長した企業の
中にいては最早分かる術がない
しかし、目的は訴える事が出来る
努力は認め合う事が出来る
林社長の「理想の企業」の理念は
今も変わって
いない

当時 (S.37頃) いつも作業衣の林社長

1962　鏡板誕生秘話

平成８年２月発行

発行人　　北海グループ社史編纂委員会
制　作　　株式会社　クイック
作　　岡田豊一